

ヨコハマ市民まち普請事業

整備成果報告会 -令和3年度整備施設- 資料集



私たちのまちを私たちでつくる
きっとまちが好きになる

令和5年2月26日(日)

【事務局】 横浜市・横浜市住宅供給公社・市民セクターよこはま

■ プログラム ■

■ 13:00～13:10 開会、事業説明

■ 13:10～14:00 整備成果の報告

【令和3年度度整備施設】

(1) NPO 法人ぐるーぷ・ちえのわ【戸塚】 …… 4ページ.

(2) Co-coya 復活プロジェクト実行委員会【緑区】 ……6 ページ

(3) 子安の丘みんなの家【神奈川区】 ……8 ページ

■ 14:00～14:10 休 憩

■ 14:10～15:10 トーク&ディスカッション

・各グループの代表者に質問を投げかけながらトーク

■ 15:10～15:15 閉 会

※時間は進行状況により、変更する可能性があります。

ヨコハマ市民まち普請事業とは

市民の皆さんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援を行う事業です。

市民の皆さんによる「アイデア検討」や「コンテストへのチャレンジ」、「整備への労力提供」や「整備後の施設の維持管理、活用・運営」などの機会を通じて地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、地域に合ったまちづくりの実現、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。

— まち普請事業における主な支援 —

その1 伴走支援

コンテストに向けて提案内容の整理や関係機関との調整など、地域まちづくり課職員が打ち合わせ等に参加し、支援します。

その2 コーディネーター派遣

まちづくりに関する知識と経験があるまちづくりコーディネーターを派遣・紹介します。

その3 活動助成金の交付

1次コンテストを通過したグループに、2次コンテストに向けて行う活動に要する費用のための活動助成金（最大 30 万円）を交付します。

その4 整備助成金の交付

2次コンテストを通過したグループには施設整備のための整備助成金（最大 500 万円）を交付します。

● まち普請事業の流れ

応募申込書 提案書の提出

まちづくりのアイデアがあれば、地域まちづくり課にご相談ください。
提案内容の整理を支援いたします。

1次コンテスト

プレゼンテーションや審査員との質疑応答などにより、2次コンテストに進む提案（活動助成金交付対象の提案）が選考されます。

2次コンテスト に向けた活動

グループ内での打ち合わせを重ね、提案内容の整理、また、地域での合意形成を進めていただきます。その他、まち普請を活用した先輩に相談いただける活動懇談会への参加などを通し、提案内容の実現性を高めていただきます。

2次コンテスト

プレゼンテーションや審査員との質疑応答などにより、整備助成金の交付を受ける提案が選考されます。

施設の整備 維持管理

施設の整備、整備した施設の維持管理は皆さんで行っていただきます。整備した施設は新築の場合 10 年、それ以外の場合は5年間維持管理していただきます。

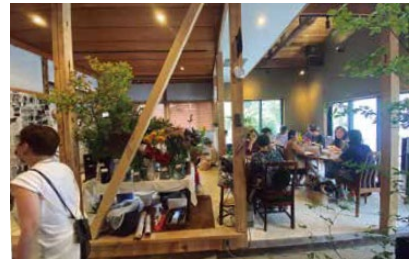
令和3年度整備施設

【戸塚区】ちえのわチュンチュンカフェ NPO 法人ぐるーぷ・ちえのわ



ココヤ 【緑区】Co-coya

Co-coya 復活プロジェクト実行委員会



【神奈川区】子安の丘みんなの家

子安の丘みんなの家



令和2年度 ヨコハマ市民まち普請事業 選考提案

【1年目】整備成果報告書

記入日：令和5年2月19日

①整備提案名	車椅子でもOK!だれでも集える多目的交流スペース
②提案グループ名	ぐるーぷ・ちえのわ事業検討委員会
③現在の施設名称	ぐるーぷ・ちえのわ多目的交流スペース(ちえのわチュンチュンカフェ)
④管理・運営団体	特定非営利活動法人ぐるーぷ・ちえのわ
⑤整備した施設の概要 (箇条書きで記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ機能を備えた店舗兼用住宅 ・車椅子でも利用可能な出入口と多目的トイレの設置
⑥整備した場所	横浜市戸塚区小雀町1115-1
⑦整備完了年月日	2021年12月10日
⑧まち普請を知ったきっかけ	・戸塚区社会福祉協議会からの紹介(NPO法人化に向けた相談に伺った時)
⑨整備提案を応募した動機、きっかけは何でしたか?(地域のニーズや課題、整備の必要性など)	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の活動参加者から、車椅子で入れるバリアフリートイレや施設入口までの緩やかなスロープの設置要望が多くあった。 ・小雀地域は交通の便が悪く公的施設もないため、高齢者が気軽に利用でき、地域で孤立しないための繋がりづくりや、介護予防に係る活動の場が必要とされてきた。
⑩整備年度の活動内容、実際の整備の進行スケジュールを記入してください。 (おおよその時期と活動内容や工事などの内容を記入してください。)	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年4月車椅子進入予定路の桜の大木を伐採 ・5月 住宅から店舗兼用住宅への用途変更の手続きを行う ・5月~7月 設計詳細調整 従前の建築確認申請当時への復旧工事 解体工事 ・7月~11月 電気水道工事・土台、木・板金工事、サッシ工事 住宅設備機器 ・10月~11月 内装工事・外構工事 ・10/23「ウッドデッキ作り」11/6「漆喰塗り」を地域の方の参加を得てイベントとして実施 ・11/23 NPO法人設立総会 ・12月10日竣工 12/12 開所式 翌日より3月末までプレオープン。 ・12月 NPO法人化申請 サービスB申請 飲食店営業許可申請
⑪整備工事では、地域でどのくらい費用や労力を負担しましたか?	<ul style="list-style-type: none"> ・まち普請500万円 ・利用者・地域の方からの寄付金2,354,933円 ・当団体設立当初からの支援企業が外構工事・樹木伐採に係る費用・労力を無償で提供。 ・ウッドデッキ作り、漆喰塗り、ブロック塀の装飾タイル貼り、ウッドデッキの塗装等を地域の方々と実施。 ・横浜市高齢者生きがい活動促進事業、公益財団法人日揮社会福祉財団公益財団法人SOMPO福祉財団等の助成金活用(家具・什器類等購入)

<p>⑫整備した施設はどのように維持管理・運営していますか？ (運営主体、費用面、ボランティアなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月にNPO法人格を取得し、多目的交流スペースを運営している。月曜日から土曜日まで、各曜日ごとにスタッフ1名とボランティア各1名で10時～16時までカフェの営業を行っている(スタッフ・ボランティア合わせて約30名)。 ・当施設を使い、横浜市の介護予防・生活支援補助事業の委託を受け、毎週水曜日には介護予防に資するプログラムを3時間実施している。この事業収入(補助金、参加費)を家賃、光熱水費、スタッフ・ボランティアへの謝金、講師料などに充てている。 ・カフェ営業の売上から、カフェの運営に関わる経費を支出している。
<p>⑬整備した施設の現在の利用状況、活用の様子などを記入してください。 新型コロナウイルス感染症による影響や対策等の工夫も教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の介護予防事業「ワイワイけんこうサロン」は、毎回10名近くの参加者を迎え、要支援の方の登録は現在6名となった。 ・他の曜日にも「音楽カフェ」「大人の寺子屋」「親子カフェ」「健康麻雀」「ものづくりワークショップ」等のプログラムを実施している。 ・通常のカフェ営業の来客数は、地域の方が徐々に増えてきているが、今後更に一層の周知を図りたい。 ・感染対策としてはマスク着用、入室時の検温、手指の消毒、換気、パーティション、空気清浄器の活用等を行っている。
<p>⑭整備をきっかけに、地域のコミュニティや地域のまちづくり活動がどのように広がりましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常のカフェ営業の利用や、介護予防の事業、「大人の寺子屋」「親子カフェ」等に地域の方が参加する機会が増え、多世代の方々とのつながりが広がってきた。 ・「大人の寺子屋」(火曜日に実施)ではテーマに「小雀の見どころ再発見」という地域の歴史や暮らしを取り上げて、4月より行ってきたところ、地域の神社、寺、公園、学校等とのつながりが以前より深まってきた。
<p>⑮まち普請に取り組んで良かったことは何ですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・築50年の2Kの古民家が、改修整備により明るくゆっくりと寛げる空間になり、地域に開かれたバリアフリーな居場所ができたこと。 ・介護予防等の事業を通して、一人暮らしの高齢の方も毎週来所を楽しみにされ、参加者相互のつながりや関わりが深まってきたこと。 ・上記事業で、活動の担い手が40～50代の世代に広がってきたこと。
<p>⑯まち普請に取り組んだ中で、苦労したことは何ですか？</p>	<p>市街化調整区域という特殊事情もあり、多くの申請書類の作成が何より大変だった。しかし、関係諸機関に協力・支援をいただき、整備工事着工にこぎつけることができた。</p>
<p>⑰これからの展望は何ですか？</p>	<p>「つながる・支え合う・地域で生きる」ことの更なる実現に向けて、このスペースの利用者をもっと増やす工夫を行う。例として、「教えた人」と「学びたい人」のマッチングによる講座の開設や、理念を共有する団体・事業者への休日の部屋貸し活用など。</p>

令和2年度 ヨコハマ市民まち普請事業 選考提案

【1年目】整備成果報告書

記入日：2023.02.21.

① 整備提案名	「水」と「火」のある地域のほっとステーション
②提案グループ名	Co-coya 復活プロジェクト実行委員会
③現在の施設名称	Co-coya
④管理・運営団体	ひとときデザイン二級建築士事務所
⑤整備した施設の概要 (箇条書きで記入)	地域に点在する拠点のインフォメーションセンターと防災拠点 地域住民の交流施設
⑥整備した場所	横浜市緑区中山5-9-1
⑦整備完了年月日	2022.1.30.
⑧まち普請を知った きっかけ	インターネット（横浜市のHP）
⑨整備提案を応募した 動機、きっかけは何で したか？（地域のニー ズや課題、整備の必要 性など）	カフェや多世代交流拠点、貸しスペースなど住宅街に点在する 活動拠点を案内する場所と、地域住民の方への活動の可視化。 いざという時に水と火の提供ができるコミュニティスペース への改修をするため、助成金を調べていたらこの事業コンテストに 沿う内容だった。
⑩整備年度の活動内 容、実際の整備の進行 スケジュールを記入し てください。 (おおよその時期と活動内容 や工事などの内容を記入して ください。)	毎月1回オープンアトリエ開催 7~9月解体、電気、木工事 8.9月職人さんと座談会開催 10-11月左官工事（住民参加型工事） 10-12月クラウドファンディングに挑戦 12-1月給排水、電気、その他仕上げ工事。 2月開所。支援者への返礼イベント開催。
⑪整備工事では、地域 でどのくらい費用や労 力を負担しましたか？	クラウドファンディングで250万円。そのほか自己資金。 立上げにコアメンバー5.6名、呼びかけには近隣住民の方にもご協 力いただく。 労働力はワークショップ形式で左官工事し、11日間で参加者延べ 111人。
⑫整備した施設はどの ように維持管理・運営 していますか？ (運営主体、費用面、 ボランティアなど)	基本的な維持管理はひとときデザインが行う。 シェアオフィス、シェアアトリエとして店貸しと時間でスペース貸しに より得た収入を家賃、光熱費等に充てている。 ・冬の空調は、薪ストーブで賄う。薪は近所の庭木剪定ゴミや繋が りのある庭師から調達し、ご近所さんたちが薪割りと火の番をして いる。

<p>⑬整備した施設の現在の利用状況、活用の様子などを記入してください。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響や対策等の工夫も教えてください。</p>	<p>・基本的にはどなたでも立ち寄れるように開放している。</p> <p>・近隣施設のサテライト貸し、駄菓子屋、珈琲スタンド、野菜販売やこども音楽教室、近隣事業者によるポップアップやワークショップ、近隣住民のサークル活動などの場として定期的に活用されている。</p> <p>コロナでの影響はそれほどなく、施設内に消毒設備を設置してそれぞれに気をつけてもらっています。</p>
<p>⑭整備をきっかけに、地域のコミュニティや地域のまちづくり活動がどのように広がりましたか？</p>	<p>近隣住民の知り合いが増える。通りがかりに寄っていかれる子供や大人が増えた。</p> <p>また、ディペロッパーや不動産などから視察や取材の依頼が増え、地域コミュニティへの関心の高さも実感している。</p>
<p>⑮まち普請に取り組んで良かったことは何ですか？</p>	<p>近隣住民の方とコミュニケーションを取るきっかけができたこと。</p> <p>さまざまに各所で起こっている活動がまとめられたこと。</p> <p>各施設の情報共有を意識的にできたこと。</p> <p>地主さんの発想や取組を広く知ってもらえたこと。</p>
<p>⑯まち普請に取り組んだ中で、苦労したことは何ですか？</p>	<p>特にないです。</p>
<p>⑰これからの展望は何ですか？</p>	<p>仲間に加わってもらえる次世代を増やすこと。</p> <p>ただ住む場所というだけでなく、情報や人が様々に交流する場所になること。</p> <p>環境共生型リノベーションの発信。</p> <p>地域コミュニティの核となる場作りの主体とつながりを持つこと。</p>

令和2年度 ヨコハマ市民まち普請事業 選考提案

【1年目】整備成果報告書

記入日：令和5年2月24日

① 整備提案名	子安の丘みんなの家
② 提案グループ名	子安の丘みんなの家をつくる会
③ 現在の施設名称	子安の丘みんなの家
④ 管理・運営団体	子安の丘みんなの家
⑤整備した施設の概要 (簡条書きで記入)	空き家を活用し、多世代活動拠点化
⑤ 整備した場所	横浜市神奈川区子安台1丁目17番7号
⑥ 整備完了年月日	令和4年3月31日
⑧まち普請を知った きっかけ	後にメンバーとなる建築士さんが知っていたため
⑨整備提案を応募した 動機、きっかけは何で したか？(地域のニー ズや課題、整備の必要 性など)	地域のためになるものをつくるための資金的な理由により
⑩整備年度の活動内 容、実際の整備の進行 スケジュールを記入し てください。 (おおよその時期と活動内容 や工事などの内容を記入して ください。)	令和3年11月下旬 解体工事開始 令和4年1月中旬 リノベーション工事開始 令和4年3月末 整備完了 令和4年5月上旬 家族食堂プレオープンイベント 以降毎週金曜日に家族食堂、毎月1~2回イベント開催
⑪整備工事では、地域 でどのくらい費用や労 力を負担しましたか？	工事の際のボランティアは総勢304名相当 冷蔵庫や床暖房、ポスト等の寄付から壁紙・外壁の施工等
⑫整備した施設はどの ように維持管理・運営 していますか？ (運営主体、費用面、 ボランティアなど)	・ 主要スタッフ(12名)にて話し合いながら維持管理・運営 ・ 費用は学研さんによる年間契約からの固定費捻出、 その他は多額の寄付、食材も全国からの寄付 ・ 家族食堂ボランティア16名

<p>⑬整備した施設の現在の利用状況、活用の様子などを記入してください。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響や対策等の工夫も教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1～2階程度スタッフで企画したイベントを開催。 ※イベント来場者数 620名 ・ 週1回家族食堂を開く。 ※家族食堂来場者数 484名（大人 254名・子供 230名） ・ コロナ対策は消毒液の常備、手洗い等
<p>⑭整備をきっかけに、地域のコミュニティや地域のまちづくり活動がどのように広がりましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備によるコミュニティは、神奈川区役所やケアプラザ、自治会に認知されるようになった。 ・ 当会主催のイベントに地域住民が参加、学童主催のイベントに当会が後援等をするようになった。 ・ 昨年は大神商店会主催のオオカミフェスタのスタンプラリーの拠点の1つで参加。
<p>⑮まち普請に取り組んで良かったことは何ですか？</p>	<p>費用面</p> <p>コンテスト通過時に各方面への団体自己紹介の時に拍が付いた</p>
<p>⑯まち普請に取り組んだ中で、苦労したことは何ですか？</p>	<p>書類が多いこと</p>
<p>⑰これからの展望は何ですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント来場者・家族食堂の来場者 各1,000名超 ・ 継続的な運営 ・ 今後は子安の丘みんなの家を拠点とし、周辺に類似施設をつくり点を点を結び、まちづくり・笑顔づくりに広がりをくっつけていきたい。

整備事例集 VOL.1～VOL.16



全てご覧いただけます！

これまで、50 を超える施設の整備にヨコハマ市民まち普請事業が活用されてきました。

市 Web ページで整備事例集をダウンロードいただけます。

facebook 「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

地域まちづくり課公認の Facebook アカウントです。

facebook に登録していなくても見るすることができます。



facebook は協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています

まち普請広場



ご相談をお待ちしております！

“まち普請事業について興味がある、相談したいことがある、応募書類を作成したけれど不備がないか確認してほしい・・・”

こうした点について少しでも気になる方は、

地域まちづくり課 までお気軽にご相談ください！

地域まちづくり課 ヨコハマ市民まち普請事業担当

☎ : 045-671-2679

メール : tb-seibiteian@city.yokohama.jp





2027横浜
国際園芸博覧会

地域まちづくり課
ヨコハマ市民まち普請事業担当
045-671-2679